

大昔調査会が20日フォーラム

岡屋考古館 保存継承を

意義見詰め、在り方模索



市民の寄付で建てられ、築60年を超える岡屋考古館

諏訪地域の歴史文化を研究する一般社団法人「大昔調査会」は20日、老朽化が懸念される岡谷市本町の岡屋考古館の保存継承に向け、フォーラムを同市のイルフプラザカルチャーセンターで開く。縄文から古墳時代の住居跡がある市内の岡屋遺跡で出土した遺物を収蔵・展示する同館の役割、意義を見詰めて市民と共有し、今後の在り方を模索していく。

(小山眞由美)

調査会によると、出土品などの文化財保護のため、市民の寄付で1962年に岡谷十五社の敷地内に建てられた。いつしか存在が忘れられ、長きにわたり閉鎖が続いたが、現在は冬季を除いて月1回ほど開館。築60年を超えた建物は天井の剥落や雨漏りなど老朽化が著しく、市民に現状を知ってもらい、保存の機運を高めていく考え。

フォーラムは「岡屋考古館のこれからのことを考えよう」と題して開催。ともに岡谷市在住で、調査会副理事長の三上徹也さんが岡屋遺跡と考古館、メンバーの坂間雄司さんが調査会の取り組みをテーマに紹介する。諏訪市文化財専門審議委員の二村悟さん、神奈川県の、発表した論文に基づいて同館の建築学的意義について講演する。

「市民の文化財保護への熱い気持ちが進められた建物」と三上さん。「皆さんに考古館の重要性について知ってもらい、保存への輪が広がってほしい」と期待する。

岡屋遺跡は1955年に林道工事の際に発見された。発掘

調査で住居跡10軒が確認され、多くの遺物が出土。館内には鉄鍬や石皿、弥生時代後期の岡屋式土器などを展示している。午後1時から。入場無料。申し込みは不要。問い合わせは三上さん(電話090・2204・2818)へ。